

時間割番号	科目名[英文名]	単位数
	林業経営学概論[Introduction to Forestry Management]	1

担当教員(責任)[ローマ字表記]
松本美香 Matsumoto Mika

担当教員[ローマ字表記]
松本美香 Matsumoto Mika 、森信 光夫 Morinobu Mitsuo

授業題目(必須入力)

林業経営学概論[Introduction to Forestry Management]

授業のキーワード(必須入力)

森林経営、精密森林管理、持続可能性、林業経営事業体

授業の目的(必須入力)

授業では、これからの森林管理は誰が主体となって行うべきなのかに関して、歴史的な例および現状事例から考察し、目指すべき森林管理の方法または森林管理受託経営の意義や持続性確保のための考え方を学び、森林経営から始める地域振興についても幅広く考える。

授業の到達目標(必須入力)

- 森林を管理されるものとして位置づけ、森林の現況とあるべき姿を具体的に表現できる。
- GISを使用して、森林の現況について第三者に説明責任が果たせることを理解し説明できる。
- 所有山林の持続可能な経営計画の実現に必要な要素を想定し、その対応を提案することができる。
- 森林管理受託事業による持続可能な経営のための森林受託管理計画の実現に必要な要素を想定し、計画を立案することができる。

授業概要(必須入力)

- 森林の経営管理はどのように行われてきたか、歴史的な例と現場の事例から考察する。
- GISを利用した精密な森林管理手法を現場に適用し、その結果が林業経営のみならず関連産業分野や地域に及ぼす波及効果について考察する。
- 地域林業構造を、木材流通面、金銭流通面、構成主体面などの側面から捉え多面的に考察する。
- 地域林業構造の源泉である地域森林の管理手法について、従来の技法を踏まえて考察する。

授業スケジュール(必須入力)

【1日目:4コマ】 担当:森信
 林業経営の現状と新たな展開について

- 林業が果たすべき説明責任と精密な森林管理システムの導入
- 新たな管理システムによる林業経営の実際と林業のこれからの展開
- 森林・林業に対する新たなイメージについてのディスカッション

 講義場所: 愛媛県宇和島市 森信林業事務所および所有山林
 集合場所: 愛媛県宇和島市道の駅「きさいや広場」
 集合後は、四駆軽自動車に乗り合わせて移動する。
 視察時間: 移動含めて2時間30分程度

【2日目:4コマ】 担当:松本
 森林経営について

- 森林経営の要点
- 収穫計画法および成熟度の活用
- 所有山林・森林管理受託事業の森林管理計画
- 森林経営から始める地域振興

 講義場所: 愛媛大学樟味キャンパス

授業時間外学習にかかわる情報(必須入力)

授業時間内の講義内容を反復したり、参考書等を用いてより理解を深めること。講義終了後に、講義内容や現場での学習について成果や課題のとりまとめを行わせることもある。

成績評価方法(必須入力)

- 課題レポート:2つ(各50点)

受講条件(任意入力)

全課程を履修できることが望ましい。

受講のルール(任意入力)

グループワークへの積極的な参加、ディスカッションを楽しむこと。

教科書(購入する必要のある図書)(必須入力)

教科書1	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	
教科書2	書名				ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書(購入する必要はないが、推奨する図書)(必須入力)

参考書1	書名	森林経営の新たな展開—団地法人経営の可能性を探る—			ISBN	4-92435-00-5-C0060
	著者名	林業経営の将来を考える研究会 編	出版社	(社)大日本山林会	出版年	2010年
参考書2	書名	日本人はどのように森をつくってきたのか			ISBN	4-8067-2240-5 C0036
	著者名	コンラッド・タットマン	出版社	築地書館	出版年	1998
参考書3	書名	森林飽和(国土の変貌を考える)			ISBN	978-4-14-091193-8 C1336
	著者名	太田 武彦	出版社	NHK出版(NHKbooks)	出版年	2012
参考書4	書名	日本林業はよみがえる			ISBN	978-4-532-356457-2 C3033
	著者名	梶山 恵司	出版社	日本経済新聞出版社	出版年	2009
参考書5	書名	日本林業を立て直す 速水林業の挑戦			ISBN	978-4-532-35534-0
	著者名	速水 亨	出版社	日本経済新聞出版社	出版年	2012

教科書・参考書に関する補足情報(必須入力)

必要なレジュメや資料は講義当日印刷物で配布します。インターネット上で参照できる富士通総研研究所報、三菱UFJリサーチ&コンサルタント季刊政策・経済研究報の一部を予習・復習教材として使用することもあります。

オフィスアワー(必須入力)

講義前後もしくはメールで対応

連絡先(必須入力)

参照ホームページ(任意入力)

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/report/research/index-kajiyama.html>
<http://www.murc.jp/thinktank/rc/journal/quarterly>

その他(任意入力)